

研修② 「保育や授業における配慮事項」

Aコース ～保育を中心に～



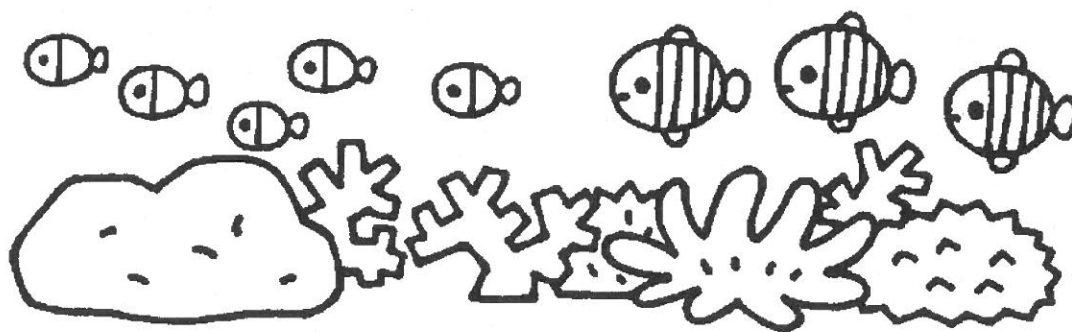
研修内容

- 1 聴覚に障害のある子供たちへの関わり方
 - (1) 乳幼児教育相談 (0～2歳)
 - (2) 幼稚部 (3～5歳)

- 2 言葉の育ちと発音
 - (1) 言葉を育てる
 - (2) 発音あそび

- 3 保育中の子供たちの様子 ～VTR～
 - (1) 乳幼児教育相談 (0～2歳)
 - (2) 幼稚部 (3～5歳)

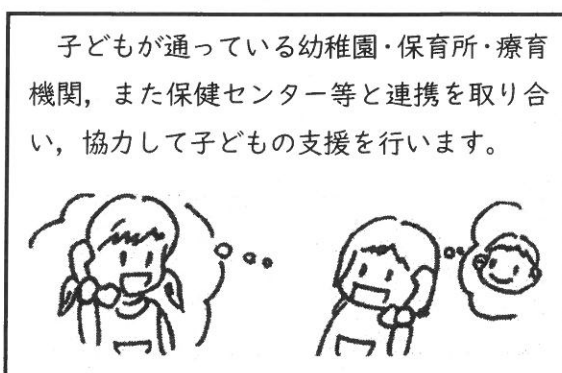
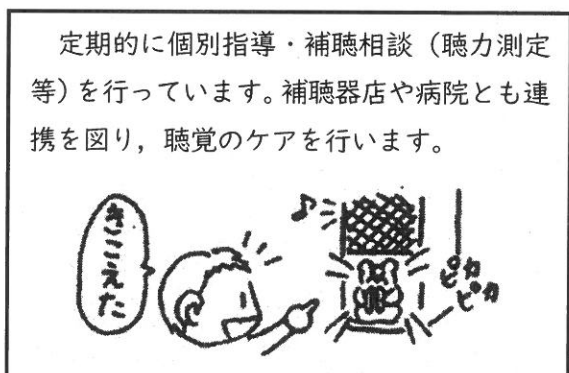
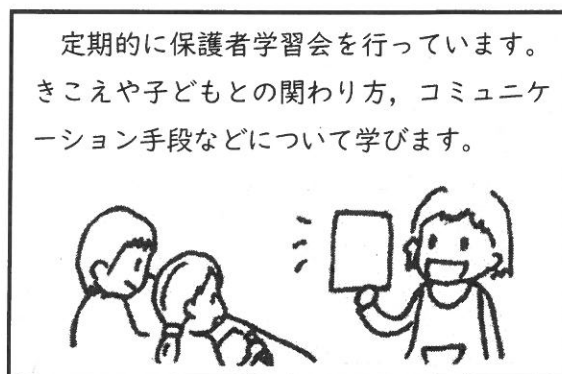
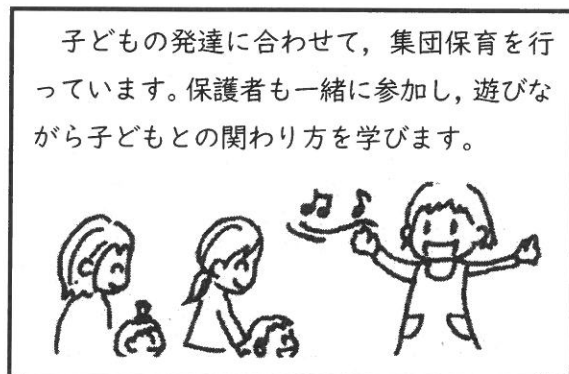
- 4 質問タイム



【 聾学校の教育 】

◇ 乳幼児教育相談(0～2歳児)

聾学校の幼稚部には、0・1・2歳児を対象にした「乳幼児教育相談」部門があります。近年、聴覚に障害のある子どもたちは生後間もなく発見されることが多く、より早期の教育が可能になっています。そこでは、子どもたちの保育のみではなく、保護者に対する支援が行われています。聴覚障害に関する正しい理解や子どもへの望ましい関わり方を学んでもらう場です。



※ 聴覚に障害のある子どもたちの中には、比較的障害が軽いために、障害が発見されなくて過ごしていることがあります。











- ・ きき間違いや、きき落としが多い（よくきき返す）。
- ・ ほかの子どもたちより、語いが少ない。
- ・ 発音が不明りょうである。
- ・ 友達とのトラブルが多い。

幼稚園や保育所に在籍している子どもさんの中で、気になるお子さんがいましたら、聾学校に御相談ください。

◇ 幼稚部(3~5歳児)

聾学校では、幼稚部から小学部、中学部、高等部(専攻科)と一貫した教育を進めています。幼稚部では、通常の幼稚園の教育内容に加えて、自立活動など専門的な教育を行っています。補聴器や人工内耳を装着して「きく」力を育てたり、体験を通して言葉を増やしたり、発音を明瞭にするための練習をしたりしています。少人数のクラスでの指導、個別指導、集団での指導など、様々な場面で一人一人に応じた指導を展開しています。また、社会性や豊かな人間関係を育むために、地域の幼稚園や保育所の保育に参加する交流保育も行っています。

幼稚部の週時程

	月	火	水	木	金	自立活動	
9:00	個別指導(絵日記) 自由遊び	個別指導(絵日記) 自由遊び 	交 流 保 育	個別指導 自由遊び	個別指導(絵日記) 自由遊び	個別指導	
10:00	おはよう	おはよう		おはよう トピックス	おはよう	おはよう 	個別指導
10:40	トピックス	トピックス		トピックス	トピックス		
10:50	設定遊び 	運動遊び (集団遊び) 		おやつ さようなら	設定遊び	おあつまり (集団遊び) 	
11:30	給食 自由遊び 	給食 自由遊び			給食 自由遊び	給食 自由遊び	
13:40	さようなら	さようなら			おはなしかい 	さようなら	
14:00	個別指導 	個別指導			個別指導	個別指導	
14:30							

【 聴覚に障害のある子どもへのかかわり方 】

(1) 子どもたちの実態

聴覚に障害のある子どもたちは、聴覚以外の面では、健康である子どもがほとんどです。しかし、耳から入る情報が制限されるため、様々な面で周囲の子どもたちと同じように活動できないことがあります。

一人一人の実態は異なりますが、以下のような行動の特性や状態が見られることがあります。

○ 周りを見て活動することはできるが、活動の意味が分かっていない。

(例) みんなと同じようにイスを運ぶが、何のためにしているのか、この後に何をするのかなどは分かっていない。



○ 話が分からず困っているのに、きき返せずに適当に返事をしたり、うなずいたりしてしまう。

(例) 「分かった？」ときかれると、ついうなづく。



○ コミュニケーションに自信がもてず、人との関わりを避けようとする。

(例) 会話が必要な遊びになると、仲間から外れることが多い。



○ 友達の言葉を誤って受け取ったり、相手に正しく伝わりにくかったりするため、トラブルが多い。

(例) ゲームのルールが伝わりにくいことなどから、友達に仲間外れにされたり、伝わりにくいことで手が出たりしてけんかになる。



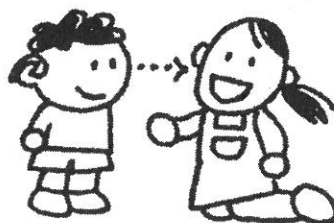
(2) 配慮すること

基本的には、周りの子どもたちと同じ関わりでよいのですが、話し掛ける際には以下のような留意点が挙げられます。

- ① 肩をたたくなど注意を引いてから話しましょう。(後ろから話し掛けても気付かないことがあります。)



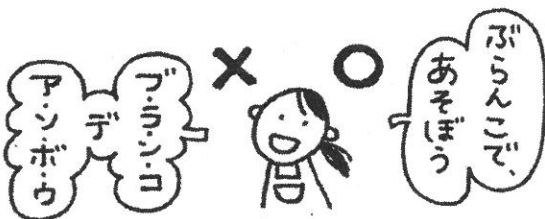
- ② 子どもの前に回り、視線を合わせ、顔(口元)を見せて話しましょう。(口の動き、顔の表情が話の理解を助けます。)



- ③ 口元が隠れないように気を付けましょう。(絵本や紙芝居で口元が隠れると理解しにくいことがあります。)



- ④ 言葉のリズムを崩さず、ゆっくりはっきり話しましょう。(自然なリズムが崩れると、逆に分かりにくくなります。)



- ⑤ 伝わりにくいときには、身振りを添えたり、簡単な言葉に言い換えたり、話の内容に関係のある具体物や絵など視覚に訴える物を使ったりしましょう。(語彙不足、似た言葉との勘違いなどで分からないことがあります。)



- ⑥ 座席は、先生の顔がよく見え、声がきこえる位置にしてください。(先生から1.5m以内が適しています。)



(3) 理解を深めてもらうために伝えること

聴覚に障害のある子どもとの関わりの中で、互いに誤解が生じたり、トラブルが起きたりすることがあります。機会を見つけて、周りの子どもたちやその保護者に、以下の点について話をしていただくと、より理解が深まります。

① 補聴器・人工内耳の重要性

補聴器や人工内耳はおもちゃではないこと、大切なものであること、壊れやすいものであること、触ってはいけないことなど



② 聴覚に障害のある子どものきこえ方

みんなと同じようにはきこえないこと、一度ではきき取りにくいこと、きき間違ふことがあることなど



③ 発音の不明りようさ

自分自身の声がききにくいことから、正しい発音が定着しにくいこと（「せんせい」が「テンテー」になったり、「ぶらんこ」が「ブアンオ」になったりする）、正しい発音ができるように練習をしていることなど



④ 聴覚に障害のある子どもへの接し方

顔を見て話し掛けること、ゆっくり話すこと、分からないようなら繰り返すこと、身振りやサイン、カード等を使うことなど



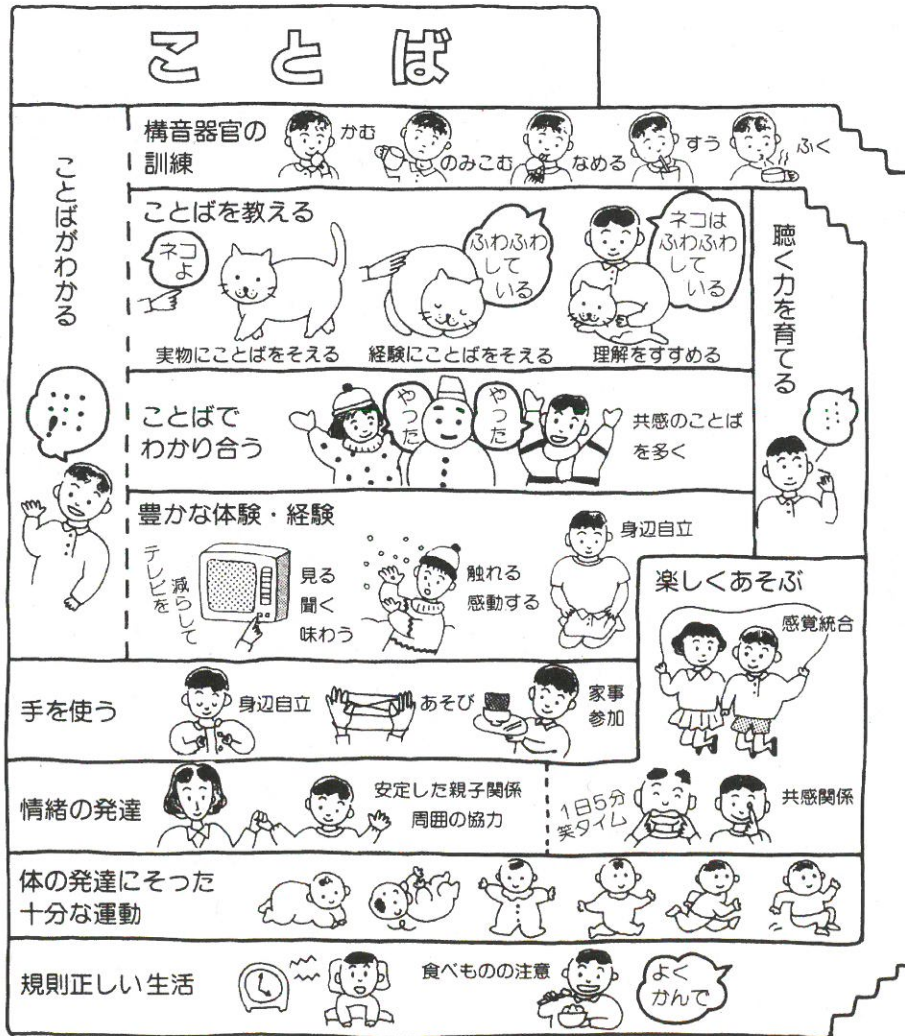
いろいろな機会を利用して、聴覚に障害のある子どもの保護者から、直接子どもたちやほかの保護者へ話をしていただくこともよいでしょう。

擬声・擬態語の例

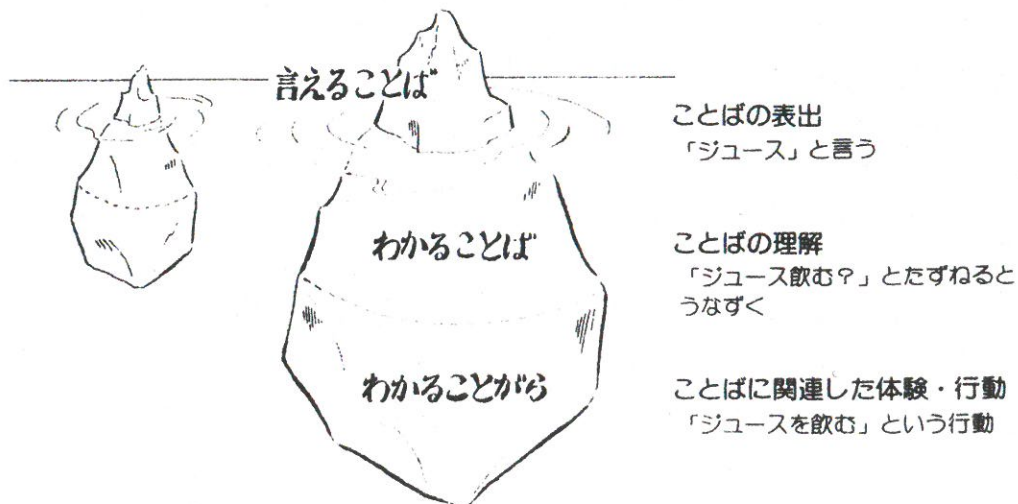
動 作	乗り物
<p> アムアム (食べる) ジャブジャブ (手を洗う) ブクブクパー (口をゆすぐ) ヨイショヨイショ (運ぶ) ゴシゴシ (こする・ふく) パンパン (手・他を叩く) パラパラ (手を上げて振る) トントン (叩く・包丁で切る・階段を登る) チョキチョキ (ハサミで切る) ペタペタ (のり・セロテープで貼る) ビリビリ (破る) ピョンピョン (跳ぶ) コロコロ (転がす) ポーン (投げる・飛び降りる) グルグル (まわす・まわる) パチン (スイッチを入れる・スナップ等を止める) トコトコ (歩く) タッタカ (走る) </p>	<p> ブーブー (自動車) ガタンガタン (電車) ポッポー (汽車) ブーン (飛行機) ブルンブルン (ヘリコプター) チリンチリン (自転車) ダダダター (オートバイ) </p>
	動 物
	<p> ワンワン (犬) ニャーオ (猫) ピョンピョン (うさぎ) ブーランブーラン (ぞう) ガオー (ライオン・トラ) ブーブー (ふた) ガーガー (アヒル) パッカパッカ (馬) モーモー (牛) キャッキャッ (猿) コケコッコー (鶏) ヒラヒラ (蝶々) ピーピー (小鳥) </p>

「ことばのビル」

様々な力を毎日の生活の中で積み上げていくということを、分かりやすく説明したものです。「ことばを言える」というのは、このビルの最上階です。ビルを建てる時に最上階から建てることはありません。土台をしっかりと固めたうえで、上へ上へと重ねていきます。



「わかることば」と「言えることば」









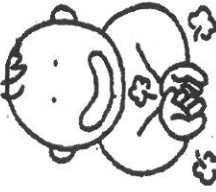

















引用文献：中川信子著『ことばをはぐくむ』 ぶどう社

ことばの発達

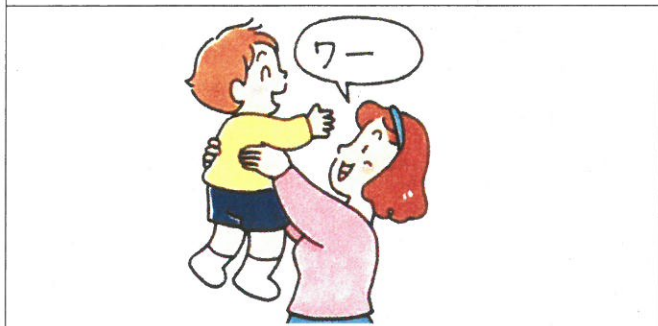
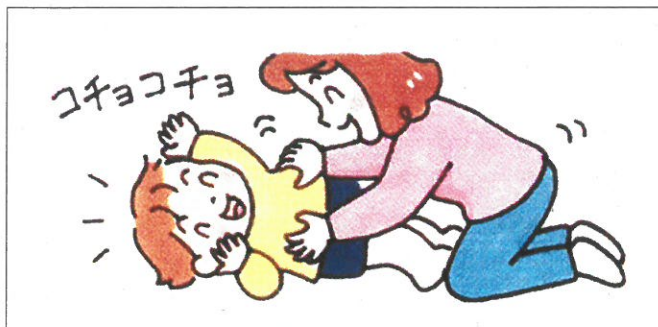
	0～1歳代	1～2歳代	2～3歳代	3～4歳代	4～5歳代
理解	<p>状況と合わせての理解</p> <p>ねえ</p>	<p>身近なものをことばで理解 事物の機能的操作</p> <p>おいで ちょうだい</p>	<p>語彙数の増加 語彙の種類が増加</p> <p>大きいのはどっち? こっち</p>	<p>日常の指示はことばで理解</p> <p>3こちょうだい お片づけしてからおやつだよ</p>	<p>みんなお集まりするから椅子を持っていぬの部屋にきてね</p> <p>説明を理解 フライパン! 食べられないパンはなに?</p>
表出	<p>表情・ジェスチャー・指さし</p> <p>だっこ だっこ</p>	<p>単語～二語文</p> <p>ばばがいいしゃ みいちゃんのだ!</p>	<p>多語文・従属文</p> <p>ばばかえってきたらおふるはいる</p>	<p>自己経験に基づく発話</p> <p>経験したことと予定を話す いつ/どこ/どうして? どこ いくの?</p>	<p>ことば遊び(なぞなぞ・しりとり)ある程度順序だてて話す</p>
対人	<p>三項関係</p> <p>あれほしい</p>	<p>母親を基地にして動く</p> <p>かくれんぼしよう!</p>	<p>友達と一緒に遊ぶ</p> <p>グループで遊ぶ</p>	<p>友達と一緒に遊ぶ</p> <p>サ・ザ・ラ行が少しずつ</p>	<p>グループで遊ぶ</p> <p>かくれんぼしよう!</p>
構音	<p>喃語</p>	<p>母音 パ・マ行</p>	<p>タ・カ・バ・ガ行</p>	<p>ハ行</p>	<p>サ・ザ・ラ行が少しずつ</p>

2. 幼児身振りサイン一覧表

【参考文献】「幼児手話辞典」東京都立足立ろう学校幼稚部より

1 ばいばい 	5 おうち 	9 おいで 	13 ない 	17 あかるい 	21 きくきこえる 
2 ちょうだい 	6 まって 	10 どうぞ 	14 しばいはお 	18 くら 	22 みる・みえる 
3 ありがとう 	7 だっこ 	11 いいよ 	15 おかたづけ 	19 食べる(給食) 	23 えん・本 
4 しっこ・トイレ 	8 おんほ 	12 おなじ 	16 いたい 	20 おいしい 	24 ぼうし 

自然な声を出す (声出し遊び)



息をゆっくりと、長く吐く（息遊び）



「しゃぼん玉」を ゆっくりと 大きく
吹きましよう。

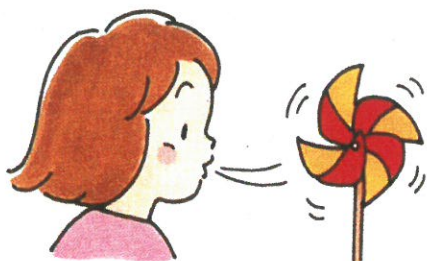


「象の鼻（吹き戻し）」を 長く
吹きましよう。



「玉吹き」を 吹きましよう。

- 強く吹いて とばしてみよう。
- ゆっくり 長く 吹いてみよう。
玉を 長い間 浮かせられるかな？



「風車」をクルクル回してみましよう。

- 長い時間 風車を 回してみよう。
- 強い息で 速く 回してみよう。



コップのジュースを
ストローで ブクブク 吹きましよう。

～ VTR視聴 ～



(1) 乳幼児教育相談 (0～2歳児)

○ ふれあい遊びの様子 (0歳児：歌遊び)

親子でふれあいながら、自然な発声を育てます。また、親子で十分に遊びを楽しみ、「楽しい」気持ちを共感(代弁)することで、子供の表情や声質も豊かになってきます。

○ ハト時計を見ている場面 (0, 1歳児：ハトが出てきたことを、親子で共感する際の言葉掛け)

注視する力や発声・身振りを育てます。期待感を高めて、ハトが出てきたときの感動を親子で共有するようにしています。子供の成長に合わせて「おーい」「おいで」など声や身振り、言葉を誘います。日々繰り返すことで、鳩時計が鳴った音に気付き、その音が鳩時計の音だと理解できるようになります。

○ 音遊びの様子 (2歳児：フープ跳び)

聴く力、見る力を育てながら、簡単なルールのある遊びを行っています。

○ うた遊びの様子 (2歳児：かえるのうた)

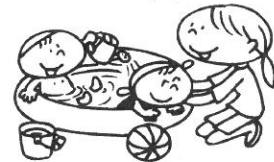
わらべうたや季節の歌を親子で楽しみ、リズムや動きの感覚を体で感じられるようにします。

○ 調理遊び (1歳児：ミキサーを使ったジュース作り)

親子で楽しく調理をしながら、いろいろな音に気付く力を育てます。調理遊びでは、食べ物を味わったり触ったり見たり、においをかいだりしてイメージを持たせています。

○ 絵本の場面 (2歳児：絵本『きんぎょがにげた』)

絵本を読むだけでなく遊びを取り入れながら、注視する力を育てたり、発声や身振りを促したりしています。



(2) 幼稚園 (3～5歳児)

○ 絵日記の場面 (4歳児：港に魚を見に行った話)

絵日記は、一日の中で楽しかった場面や印象に残ったことを題材に、親子で描いてきます。それをもとに、翌日担任と話をしながら新しい言葉を増やしたり、コミュニケーションの仕方を学んだりします。

○ おはようの場面 (3歳児：健康観察)

おはよう(朝の会)の司会を当番制で順番にしています。健康観察のときには、呼名をし、自分の写真カードを黒板に貼り、自分の名前や友達の名前を文字と写真で確認します。

○ 季節の歌を歌う場面 (3歳児：きらきらぼし)

季節の歌は、「おはよう」や「おあつまり」で歌っています。リズムをとったり、歌の意味を分かりやすくしたりするために、歌うときには動作化しています。

○ 話し合いの場面 (4歳児：何をして遊ぶかの話し合い)

子供同士のコミュニケーションを促すために話し合い活動を入れています。集団での話し合いの際は誰が話しているか分かるように発言者を前に出したり、話している子に注意を向けるように促したりしています。

○ 指示の様子 (5歳児：制作活動前の指示)

次の活動についての指示を出すときには、指で指示の数を示したり、絵カードを使ったり、伝わったかどうかの確認をしたりして分かるようにしています。

○ 自立活動の様子 (3歳児：発音指導、保護者支援)

担当が抽出して行う聴力測定、言語指導及び、担当が行う個別指導があります。その中で、保護者に課題を伝え、家庭でも取り組んでもらうようにしています。

